

建築科

卒業認定の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

■ 育成人材像

- ① 各種一般構造、建築材料等の建築物の知識や建築基準法の知識をもとに設計事務所で、図面の作成ができるようになる。
- ② 建築施工や施工計画の知識をもとに建築工事現場での検査、調査業務、原価、工程、品質の管理ができるようになる。
- ③ 建築生産の知識をもとに木造建築工事のリフォーム施工現場での設計、施工管理業務ができるようになる。
- ④ 少子高齢化が進む昨今、建築計画の知識をもとに耐震改修やバリアフリー工事の相談・提案ができるようになる。
- ⑤ 今後増加が見込まれるリノベーション工事で、建築材料、住宅計画、建築史、建築設備の知識を身に付けることでお客様の要望を聞き取り、提案ができるようになる。

■ 身に付ける能力

建築工学専攻・CAD 設計専攻共通

- ① 建築計画や建築史、環境設備の知識を身に付けることで新築工事・リフォーム工事を問わずお客様の相談業務に対応することができる。
- ② 建築関連法規の知識を身に付けることで、建築確認申請の業務に携わることができる。
- ③ 構造力学や建築構造の知識を身に付けることで、建築設計の業務に携わることができる。
- ④ 建築施工の知識を身に付けることで、工事現場において現場監督や、現場調査業務に携わることができる。
- ⑤ 上記の知識を身に付けることで、建築士試験、施工管理技士試験に対応することができる。

建築工学専攻

- ① 建築計画、設備、構造、建築材料、建築積算、建築関連法令など建築工学系の知識を身に付けることで、建築設計業務全般、施工管理業務全般の対応ができる。

CAD 設計専攻

- ① 建築業界内で主流となっている CAD、BIM のソフトを使いこなす技術を身に付けることで、今後ますます多様化する顧客のニーズに応えられる提案ができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

■ 教育課程編成の方針

- ① 豊かな教養と社会常識、建築業界就職に必要な知識を身に付けるために、「就職対策」を各年次に配置する。
- ② 1 年次は、建築業界における基礎的知識、BIM の基本的操作技術習得、建築士試験に必要な製図力、建築工学を身に付けるための専門科目を配置する。
- ③ 2 年次は、建築業界で即戦力として活躍できる実践力を身に付けるための専門科目として、1 年次に身に付けた、基礎的知識の応用による演習、BIM の操作法の応用・並びに各種 CAD ソフトを使いこなす、プレゼンテーション力を高める技術を身に付けるための専門科目を配置する。
- ④ 1 年次通年で企業と連携した実習科目を配置する。

■ 授業実施の方針

- ① キャリア教育科目である「就職対策」はオンラインコンテンツを利用した一般常識の学修、履歴書・エントリーシートの記述指導、面接訓練等の実践トレーニング、業界企業研究とする。
- ② 建築工学分野における知識修得を目的とした科目は講義形式で行うことを基本とし、知識の定着のための演習はグループワーク形式で行う。
- ③ BIM・CAD ソフトの操作技能を身に付けるための専門科目は、実習形式で行う。年間5作品程度の図面を作成した上でプレゼンテーションを行い、建築業界で即戦力として活躍できる実践力を身に付ける。
- ④ 実践力を身に付けるために実施する企業と連携した実習授業は、1年次に2科目実施する。
 - ・ 建築設計製図 I では地元工務店の指導のもと木造住宅の骨組みを作る「木造軸組み実習」を行う。
 - ・ CAD設計 II ではBIM活用の先駆的企業の指導のもと、実務に即したレベルでBIMの操作技術と応用学ぶ。

■ 学修成果評価の方針

- ① 講義科目は、定期試験、小テスト、レポート、授業に取り組む姿勢をもとに総合的に評価する。各科目の評価方法はシラバスに記載する。
- ② 実習科目は、課題の提出状況、作品の完成度、授業に取り組む姿勢をもとに総合的に評価する。各科目の評価方法はシラバスに記載する。